

東商ゴムのダンパーゴム 音響機器企業に採用広がる

2020年12月05日

ゴムタイムス社

ツイート

いいね! シェア

東商ゴム工業（東京都墨田区、末永大介社長）が製造するレコード針用のダンパーゴムの採用が広がっている。今期（2021年6月期）からはダイヤモンドレコード針でトップメーカーの老舗企業2社に同社のダンパーゴムが採用され、受注生産が始まっている。「1社様からは月2000個程度のオーダーがきている」（末永社長）という。

老舗企業との出会いについて、末永社長は「当社が出展した展示会のブースにきていただいたのがきっかけ。老舗企業様が求める音質に向けて、何度も打ち合わせさせていただいた。ゴムの配合を変えながら開発にトライすることで、長い評価期間を経て製品化させていただいた」と話す。

ダンパーゴムはレコード針の部品構成の中でも重要なパーツとされ、様々なゴム材質や形状によってレコードから流れる音質が変わるとされる。同社が生産するダンパーゴムは、概ね外径が2ミリ、内径が1ミリ、幅が1ミリという。

同社がレコード針用のダンパーゴムの開発を始めるきっかけとなったのは、トップウイング（東京都東村山市）が2017年に発売したレコードカードリッジ「青龍」のレコード針用のダンパーゴムに採用されてから（第2弾の朱雀にも採用）。ダンパーゴムの開発にあたっては、ゴムの硬度や離型の方法などで難しい要求が出されたものの、ゴム配合から試行錯誤を重ねながらトライし量産化に至った。

小ロット多品種を強みとする同社では、OA機器用を中心に、繊維機械や食品機械、医療機器など様々な産業機械に組み込まれるゴムローラーを手がけている。このほか、ゴム単体製品も自社で一貫生産している。こうした強みをPRすべく、各地で開催される展示会やビジネスマッチングに積極的に参加し、新規顧客との取引拡大にもつながっている。来年2月に開催される機械要素技術展（幕張メッセ）では、ダンパーゴムとともにフリーゴム、ゴムスポンジローラーなど小ロット多品種を出品する予定にしている。





レコード針用のダンパーゴム

関連キーワード: [レコード用ダンパーゴム](#)・[東商ゴム工業](#)

ゴム専門4雑誌 1契約で5名閲覧
総計1000ページが読み放題!

ゴムタイムス 電子版 [詳しくはこちら ▶](#)

関連記事:

- [東商ゴム工業 本社機能の一部を横芝工場に移管 小ロット多品種な生産体制強化へ](#)
- [ものづくりワールド開催 新製品・開発力などPR](#)
- [ゴムロール特集 東商ゴム工業 豊富な設備を強みに試作を強化 積極的に商談会や展示会へ参加](#)
- [新技術創出交流会開催 都内ゴム企業も製品訴求](#)
- [下町発の開発力を訴求 「第5回町工場見本市」開催](#)

🔍技術セミナーのご案内

ゴムタイムス主催セミナー

1. [【WEBセミナー】プラスチック射出成形金型の実務解説～金型保全に必要なメンテナンス、オーバーホール～](#)

